



筑 胃 研 究 第 13号

平成14年11月 6日

筑後ブロック各医師会長 殿

筑後ブロック胃集検研究会

会長 田中 幹夫



筑後ブロック胃集検研究会撮影従事者講習会について

晩秋の候、貴会におかれましては、益々ご繁栄のこととお慶び申し上げます。

さて、日頃より胃集検研究会の検診業務にご協力を頂きありがとうございます。

筑後ブロック胃集検研究会では、県の委託を受け集団検診撮影従事者の講習会を毎年行
ってまいりましたが、今回、別紙要望書の趣旨に沿い筑後ブロック各医師会の胃の集団検
診を受託されている施設の放射線技師を対象に講習会への参加をご案内することに致しま
した。講習会は毎月1回開催されております。

つきましては、貴医師会の検診受託医療機関へ是非ご案内頂きますよう宜しくお願い致
します。

要望書

関係各位殿

謹啓 皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、筑後ブロック胃集検研究会の意向として、間接胃集検の精度管理強化の観点から、関係各位の検診施設殿に対して**新撮影法（高濃度バリウムを使用した二重造影中心の撮影法）の全面的な採用**と、筑後地区における検診施設間、撮影側と読影側といった縦横の連携強化を目的にした撮影技師によるX線勉強会『はぜの木会』へのご参加の2点を要望致します。

新撮影法とは、馬場ら¹⁾²⁾が1995年に集検学会で提唱した方法に準じたもので、要約しますと①高濃度粉末バリウム(200W/V%)、②右下回り回転変換法、③二重造影単独8枚法、④高精細I.I.の採用といったものです。この方法によって、間接X線の画質が飛躍的に向上し、胃癌発見率および早期胃癌率の向上が得られたと報告されています。

そこで、実際に筑後ブロックのある胃集検施設にて、同一地域住民(約3000人)を対象とし上記に準じた新撮影法を試験的に採用致しましたところ、新撮影法による間接フィルムの画質は従来法よりも鮮明な二重造影像が得られており、さらに1998~2000年度の旧撮影法(従来法)では胃癌発見率0.07~0.14%(2~4名)であったのに対し、2001年度の新撮影法では驚異的な高率0.41%(12名)の成績を達成することが出来ました(集検学会報告済)。このような経緯から、筑後ブロック胃集検研究会では筑後地区の集検施設全体への普及推進を決定した次第です。

同時に筑後ブロック胃集検研究会のご指導のもと、『はぜの木会』というX線勉強会を発足致しました。この会では、X線撮影に携わる放射線技師が主体となり、撮影手技などの技術向上については勿論、撮影側と読影側との問題点、発見率向上のためのX線画質や発見胃癌の分析、各施設のフィルムの検討などを定期的に行っています。上記の新撮影法の実技指導も行っておりますので、積極的なご参加ご利用をお願い致します(『はぜの木会』への問い合わせ：事務局：九州産業衛生協会-久留米診療所：0942-35-8195：吉田、荒木まで)。

近年、各分野で構造改革が叫ばれる時代を迎え、集検の場も例外ではなくなってきました。日頃、皆様には大変御足労をおかけしておりますが、筑後ブロック一体となった新撮影法の推奨にぜひともご協力の程よろしくお願い申し上げます。

敬具

文献：

- 1) 馬場保昌. 馬場塾の最新胃X線検査法. 医学書院 2001
- 2) 富樫聖子、佐藤清二、山岸善九郎、他. 救命可能な胃癌発見を目指して-当施設における間接撮影法の工夫と成績の変遷から. 消化器集団検診126:642-658,1997

2002年9月吉日

筑後ブロック胃集検研究会
田中幹夫 北里誠也